

洗濯物の室内干しについての考察

志村 良知

ある年長の方と飲んでいるとき「ねえ、部屋の中でも洗濯物が乾くのは何故かね、だって水が飛ぶのは百度でしょう」というご下問があった。私にこの分野の知識があると認めて下さった、という嬉しさで「良い質問ですねえ」と意気込んで説明を始めた。しかし、アルコールで空転する脳細胞間でうろ覚えの専門用語が渦巻いて、支離滅裂になってしまった。

この質問への答えは、まず水蒸気と湯気から説き始めるのが妥当であろう。水蒸気は液体の水の表面から常に出ている。これを蒸発と呼び、その量は触れている空気の状態や水の温度による。水や空気の温度が高く、空気中の水蒸気量が少ない（湿度が低い）ほど多い。

水蒸気は目に見えないが、高温の水蒸気が空気中で冷えて細かい水滴になるともくもくと白い湯気として目に見えるようになる。水が沸騰する百度というのは水の表面だけでなく沸き立つ全体から大量の水蒸気が出てくる温度で、湯気として目に見えるようになる量も多く、水が空気中に飛んでいくのを実感できる。

この予備知識を以って洗濯物の室内干しについて考える。洗濯物に付いている水は液体であるからこれを気体として空気中に飛ばす必要がある。それには温度が高く湿度が低い状態を作ってやればよい。

しかしここで難敵が現われる。濡れた洗濯物が空気に触れている境界面には紙より薄い空気層が布に貼りつく。布からの水蒸気はこの薄い層の中に留まって布から離れず、室内の空气中に散っていない。単に室内の温度を上げるだけでは洗濯物は乾かず、暖かく湿った布中で雑菌が増えるだけである。

この状況の救いの神は風で、空気を動かし続けることで布との境界の薄い層は壊れ、水蒸気は室内の空气中に散っていく。風は扇風機で十分、除湿器の乾いた温風ならなおよい。

おしまいに、万葉集より一首。

春過ぎて夏きたるらし白妙の衣ほしたり天の香具山

持統天皇

さすが持統女帝、洗濯物がよく乾く条件を見事に歌い上げていらっしやる。